

## 中国での生態型都市の計画・建設の現状と課題

李京生 (Li Jingsheng) 建築家、上海同済大学都市計画学部教授

20 年来、中国の毎年の経済成長率は 7 % になり、都市化発展が速くて猛烈であったため、エネルギー源問題、資源問題及び環境問題がますます深刻になり、経済発展と環境保全との矛盾がますます現われてきている。そのために、国家と地方都市政府は、『21 世紀持続可能な発展議定』を制定し、基本耕地、水源地、森林、湿地、人文と自然生態保全区域を厳格に確定する制度を確立し、都市部市街地の無制限の拡大を防止する様々な対策を立てている。

政府は都市建設を花園都市、園林都市、山水都市、生態都市に分けてそれらを各段階の目標とし、その中で生態型都市の建設を最高の目標としている。そのために、中国建設部と国家環境総局は、相応する審査基準を制定し、都市環境の改善を目指している。それと同時に、都市計画の際に、自然環境に合わせることを要求し、都市が生態回廊の緑の空間を形成することを普遍的な計画手法としている。また、環境影響評価と環境負荷力の計算に関する内容を『都市計画法』の調整案に添加するという。

都市生態型建設の目標をめぐるのは、道路景観、河道景観整備、広告設置などの『都市計画法』に言及されていない計画内容の導入が行われている。経済が進んでいる沿海部の都市計画では、通常、国際コンペの方式を採用し、外国の会社を招聘し設計に参加させることで、発展国の先進的な理念、設計手法及び生態技術を導入することを図っている。

政府は大都会の郊外農村の大規模な観光プロジェクトの開発、「農家楽」を主題とする観光農業プロジェクト（一種の中国版のグリーンツーリズム）の建設を扶助することによって、郊外地域の景観建設と生態環境の改善を促進させ、農村地域の経済発展を推進させることを目指している。また、都市産業と環境建設の中で環境の 3R 理念を重視し、都市の産業構造と消費構造の調整を行い、北京、上海、蘇州などの大都市では循環型都市発展計画を立てることに取り掛かっている。

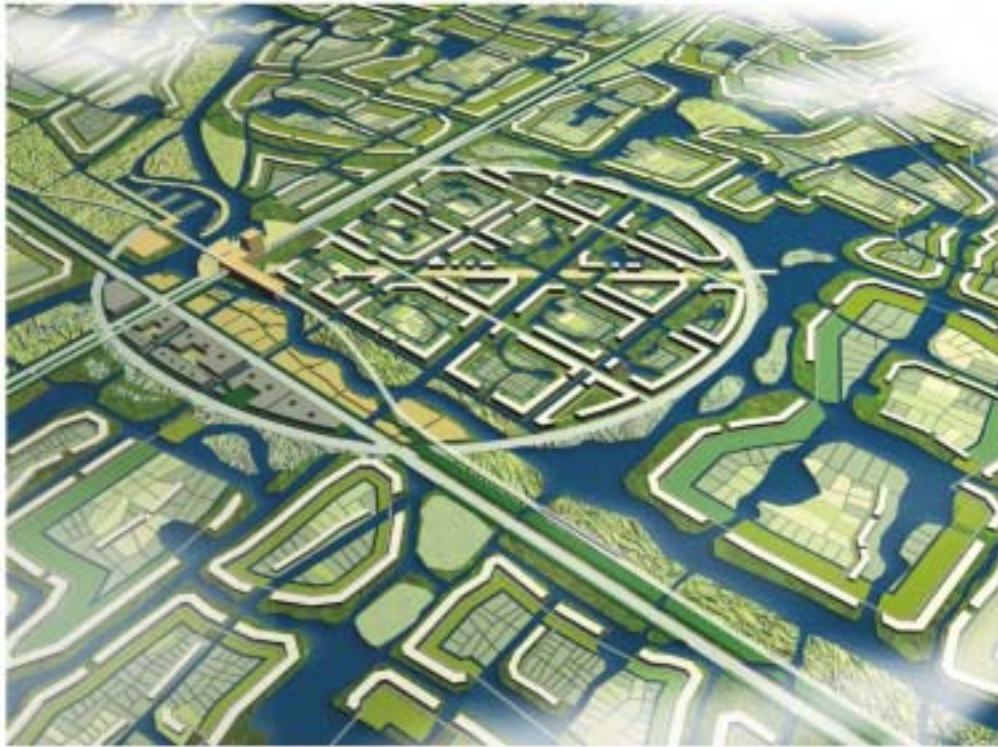
住居環境と住宅建設については、『緑の生態住宅区建設要点と技術指導規則』が中国建設部によって制定されている。居住区の廃棄物、汚水の浄化、雨水の循環利用が向上し、太陽エネルギーの利用と地域冷暖房の比率が増大するよう激励されている。一部の都市では、建築の省エネルギー基準を制定し、断熱材料、インテリジェント型及び省エネルギー設備に対する要求を提示し、その基準に合わせて新しく建てる建築の設計を厳格に審査するようにしている。

現在、生態型都市計画と建築設計の手法はまだ単一であり、生態型都市建設をめぐる相応する激励政策、具体的実施方法、適用な生態技術の統合化、住民参加制度の整備などの面で、解決すべき多くの課題が残されている。

李京生 (Li Jingsheng) 1956 年に北京市に生まれる。上海同済大学都市計画学部教授。フランス (Bordeaux) 建築学院、ドイツ BAUHAUS (Weimar) 大学客員研究員。1982 年に西安冶金建築学院建築学部を卒業し、1995 年に日本大生物資源学部の青木・糸長研究室 (現在の建築・地域共生デザイン研究室) で建築・農村計画研究を修め、農学博士号を取得した。中国建築学会に主催された都市計画と建築設計コンクールで数回受賞し、2003 年には、日本で開催された世界ガス会議主催の国際コンペ「環境調整型都市デザインコンペティション」(世界で 8 地域 9 チームの参加) の中国代表で水郷都市のエコロジカルデザインを提示した。現在生態型都市計画の手法と持続可能な地域発展理論・計画の研究に取り組んでいる。 [shtjljisk@online.sh.cn](mailto:shtjljisk@online.sh.cn) <http://www.outofidea.com/> 2005 年 4 月原稿

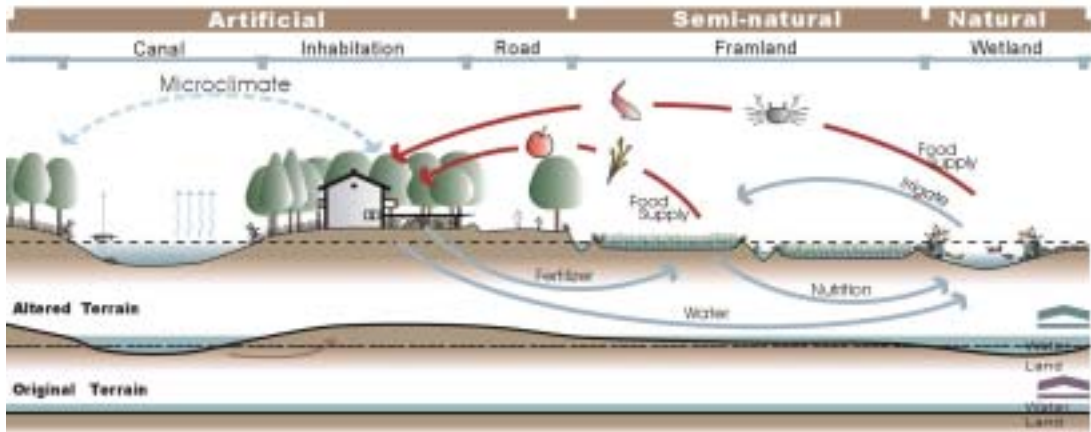


写真1 李京生デザインの環境配慮型住宅団地  
上海近郊地域



「水郷都市計画案」での水郷都市計画案（李京生研究室）

フィショ



(李京生研究室、図1と同様のプロジェクトでの作品の一部)